

ロジカルに考える義歯の人工歯排列と削合調整

近年のビジネス界で活用されている[ロジカルに考える]とは、何らかの作業を行うにあたり直感や感覚に頼らず、物事に筋道を立てて論理的に思考し、その理由とデータを参考に結論を導き出すことである。

義歯の目的は、患者がしっかり「噛めること」であり、そのためにはどうすればよいのか、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士が共通の認識と目的(結論)を持つ必要がある。

義歯製作に必要となってくる各工程も、なぜこの作業が必要なのかをお互いが理解した上で、完成義歯の形態を仮想しつつ話が進められる。ラボサイドでは各症例に対して咬合器に適切な位置でマウントされた作業用模型に、どの位置と高さに咬合平面設定し、どこに人工歯を排列し、どのような咬合様式を与えるか(理由)を、これまで蓄積された論文や臨床結果(データ)などを参考にし、目的にむけて工程を筋道立てて行う事で、情報交換もスムーズになり効率よく作業が行う事が可能となる。

本講演ではロジカルに考えながら行う、総義歯の作業工程の中から人工歯排列とレジン重合後の削合調整に主体を置き、各工程のチェックポイントを確認しつつ解説していきたい。